

## 2020年度（令和2年度）学校評価報告書

### 1. コロナ禍への対応について

園の環境整備と保護者のみなさまの協力もあり、保育を途切れることなく継続できた。いち早く ICT 環境を整備し、関西で一番乗りとなる動画配信システム「おうちえん」の導入を進めた結果、新型コロナウイルスによる第1回目の緊急事態宣言下での保育縮小要請時にも、保護者や園児に対して継続的に動画配信を行い不安の解消を図ることもできた。加えて「電子図書館システム」も採り入れ、保育縮小時に登園できない園児のため読書環境を保障することができた。

また、通常開園再開後においては、新型コロナウイルス感染防止策を徹底し、安心して通園いただける環境を整えることができた。さまざまな制約がある中、園行事のライブ配信や開催形態の変更による来園者数調整等を行うことにより、保護者の方々にできる限り園のようすをお伝えすることができた。

### 2. 学年について（教育保育の取り組み）

園児の主体的な活動をより一層促す手段として、また小学校以上で進められている ICT 機器を使った授業に適応できる準備として、いち早く ICT 教育カリキュラム「KitS」を導入し研修を進め、各学年においても ICT 機器とコンテンツを活用した保育を進めることができた。

また、各学年が当初掲げた目標については、コロナ禍に対応するため行事の形態変更、カリキュラムの変更等を行いながらではあるが、園児の主体的な活動を進めることを中心に、ほとんどの項目において達成することができた。その結果として今年度も保護者のみなさまから高い評価を得ることができた。この成果をもとに 2021 年度はさらに内容の質的深化を図りたい。

### 3. 園務分掌について

各分掌とも当初掲げた目標について、感染拡大防止のための対策として多人数が集まる環境を設けることができなかったために「進学情報」「保護者同士の交流」については達成することができなかったが、他の項目についてはおおむね達成することができた。結果、分掌についても保護者のみなさまから高い評価を得ることができた。

また、学院・小学校と連携し、ロボットプログラミングの研修を進め、保育への導入可能性の検討を行った。また、ロボットプログラミングの課外教室を新たに開設し、保護者ニーズにこたえられるよう環境整備を行った。

一貫連携事業を含む連携事業については、感染拡大防止のため、外部からの入構制限、人数制限等をおこなったこと、また、密を避けるための延期や中止を行ったため、当初計画した予定どおりには実施しえなかった。このことにより総合学園の一角としての園であることの魅力を、子どもたちや保護者のみなさまに十分伝えられなかったことは今後の課題である。

### 4. リスク管理について

リスク管理面においての予防措置や対策、また解決について保護者のみなさまからのご理解を得、園の安心・安全に対しての信頼を維持することができた。

## 5. 課題について

園行事について、感染拡大防止のため、行政や学院の指針に従い延期あるいは中止をしたり、実施はできても来園者の人数制限等実施形態の変更をしたりしたものが多くあった。このため保護者のみなさまには残念な思いやご不便をおかけしたことと思う。この点については申し訳なく思っている。しかし、ICTを活用した教育保育環境を整備充実させていたため、年間を通じてライブを含めた動画配信等を行うことができ、園の説明責任は最低限保障されたものと考えている。今後は、さらに情報の発信増や質の向上について工夫を重ねたい。

## 6. 苦情案件

公表を必要とする案件はなかった。

## 7. 総括

前年度の学校評価アンケートの保護者満足度の少し低い項目、自由記述欄にご記入いただいた要望等を真摯に受け止め、教職員で共有し積極的な改善を行うことにより、ほとんどの保護者の方にご満足いただける結果となった（保護者推薦度 95.6%）。また、新型コロナのパンデミックにより園の運営にも大きな影響が及んだが、保護者のみなさまのご理解・ご協力のおかげで新しい形態での実施等、柔軟に対応することができた。これらは幼保連携型認定こども園 追手門学院幼稚園の全教職員が目標を共有し職務に取り組んだ結果であり、教職員の日々の努力の成果である。

以 上